

法歯科医学・災害歯科医学

責任者・コーディネーター	熊谷 章子 教授		
担当講座（分野）	法科学講座（法歯学・災害口腔医学分野）		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習 実習
期間	前期		前期 14.0時間 14.0時間 後期 — —

学修方針（講義概要等）

3年次までに学び得た歯学的知識に加え、本科目で学ぶ法医学的知見から、適切で正確な身元不詳者の個人識別方法を学修する。

歯科医師の法的責任が発生した過去の事案を追求することで、歯科医師として法令を遵守する態度を習得する。

災害被災者への歯科保健医療活動、虐待防止等における歯科医師の責務を知り、歯科医師が国民の健康を守る重要な立場にあることを理解する。

これらを実践的な方法で学び、様々な状況でも対応できる能力を身につける。

教育成果（アウトカム）

【講義】
法歯科医学・災害歯科医学を実例から学ぶことで、法医学領域における歯科医師の責務を理解し、災害発生時の歯科保健医療活動や犠牲者個人識別に備える態度が身につく。また、本科目では虐待予防、早期発見、発見時の対応ができるための講義を設けている。

【実習】
適切で正確な歯科的個人識別方法が身につく。災害発生時の歯科医師としての役割と、多職種と連携した柔軟な対応方法が身につく。咬傷鑑定方法を考える能力が身につく。

（関連するディプロマポリシー：1～5、7、9）

到達目標（SB0s）

1. 身元不詳者個人識別のための性差や加齢変化について説明できる。
2. 歯科医師の法的責任について説明できる。
3. 災害時の歯科医師としての責務を果たす準備ができる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

【事前学修】
シラバスに記載されている各回到達目標の内容に関し、教科書を用いて調べて、ノートにまとめておくものとする。各回平均30分を要する。また、各講義に対する事前配布資料またはWeb classに提示される講義資料がある場合には、適宜活用することとする。

各講義の冒頭または講義中に、適宜、事前学修内容の発表時間を設けて知識の習得状況を確認する。

【事後学修】
講義後に確認テストを実施する。理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均45分を要する。

本内容はすべての講義・実習に対して該当するものとする。

（事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均45分を要する）

講義/演習/実習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	4/3 (木)	1	熊谷章子教授 (法科学講座法歯 学・災害口腔医学分 野)	法歯科医学・災害歯科 医学概論 法歯科医学・災害歯科 医学の概容を理解でき る。	1. 法歯科医学用語を説明できる。 2. 異状死について説明できる。 3. 身元不明者の個人識別について 説明できる。 4. 災害歯科医学用語を説明でき る。 5. 災害時に必要な医療支援を説明 できる。 6. 災害犠牲者身元確認に関する日 本の制度を説明できる。 7. 災害対応者の心的ストレス、 PTSDについて説明できる。 [PR-01、GE-05、PS-10、CM-04・ 05、IP-01・02・03・04、SO-06、A- 2-3-4、C-1-1-2、C-1-3-2・3・ 4、C-4-1-1、C-4-3-7・8、C-4-4- 2・3] 事前学修：法歯科医学p1-5、p83- 99、p181-194を読み、疑問点を抽出 しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義の最後に実施する確 認テストを用い、不明点について知 識の補充を行う。所要時間45分程 度。
講義	4/10 (木)	1	熊谷章子教授 (法科学講座法歯 学・災害口腔医学分 野)	法医学概論 法病理学を理解する。	1. 死因とその死体所見を説明でき る。 2. 生活反応と死後変化の区別がで きる。 3. 早期・晩期死体現象について説 明できる。 4. 薬物中毒と依存の違いについて 説明できる。 5. 代表的な中毒の外表所見を説明 できる。 [PR-01、A-2-3-4、C-1-1-2、C-4- 1-1、C-4-4-2・3] 事前学修：法歯科医学p17-37、p41- 53、p65-82を読み、疑問点を抽出し ておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義の最後に実施する確 認テストを用い、不明点について知 識の補充を行う。所要時間45分程 度。

講義	4/17 (木)	1	熊谷章子教授 (法科学講座法歯 学・災害口腔医学分 野)	法と歯学 法律と歯科医業を理解 する。	1. 歯科医師の法的責任を説明できる。 2. 正当行為と不法行為を説明できる。 3. 医療事故調査制度を説明できる。 4. 医療事故・過誤を説明できる。 5. 死体解剖について説明できる。 6. 死因究明等の推進制度を説明できる。 7. 死亡診断ができる。 8. 死亡診断書を書くことができる。 [PR-01、C-1-1-2、C-1-2-1・2・5、C-1-3-5、C-3-2-1・2、C-4-2-1・2] 事前学修：法歯科医学p6-16、p195-209を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義の最後に実施する確認テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間45分程度。
実習	4/24 (木)	1	熊谷章子教授 (法科学講座法歯 学・災害口腔医学分 野)	法医学的個人識別 身元不詳者の個人識別 を習得する。	1. 人骨形態から引き出せる情報を説明できる。 2. 人骨から性別判定ができる。 3. 人骨から死亡時年齢を推定できる。 4. 歯科的個人識別の方法を説明できる。 5. 歯科的年齢推定の方法を説明できる。 [PR-01、A-2-3-2、A-2-4-5・7、C-4-2-2、C-4-4-1] 事前学修：法歯科医学p100-129、p134-145、p156-167を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解不十分であった点については知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	5/1 (木)	1	熊谷章子教授 (法科学講座法歯 学・災害口腔医学分 野)	歯科的年齢推定実習 歯からの年齢推定法を 習得する。	1. 歯の成長発育や加齢変化に関する知識を使用して、歯から個人の年齢推定ができる。 [A-2-3-2、A-2-4-5・7] 事前学修：歯の解剖学を復習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解不十分であった点については知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	5/15 (木)	1	熊谷章子教授 (法科学講座法歯 学・災害口腔医学分 野)	虐待 虐待と歯科医師の関わりを理解できる。	1. 虐待の種類を説明できる。 2. 虐待の徴候と対応を説明できる。 3. 虐待防止制度を説明できる。 4. 虐待に対する歯科医師の責務を説明できる。 5. 虐待発見時の通報先を説明できる。 6. 咬傷鑑定について説明できる。 7. 被害者の咬傷と被疑者の歯列弓を科学的に分析できる。 8. 科学的分析結果についてプレゼンテーションを実施できる。 [PR-01、C-1-3-3・4・5、C-4-2-2、C-4-3-5・6、C-4-4-2、D-5-6-10、D-5-7-10] 事前学修：法歯科医学p 38-40、p54-64を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義の最後に実施する確認テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間45分程度。
実習	5/29 (木)	1	熊谷章子教授 (法科学講座法歯 学・災害口腔医学分 野)	発災後経時的活動記録実習 災害発生直後に対応できる能力を習得する。	1. グループワークを通して、発災後の経時的活動記録（クロノロジー）の重要性を説明できる。 [C-1-3-2・3・4、C-4-3-7・8] 事前学修：岩手県の地域防災計画に目を通しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解不十分であった点については知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/5 (木)	1	眞瀬智彦教授 (救急・災害医学講座)	災害医学概論 災害医学の概容を理解できる。	1. 過去に起きた大規模災害とその問題について説明できる。 2. 平時と災害時の医療の違いを説明できる。 3. 災害医療の基本理念を説明できる。 4. 災害拠点病院について説明できる。 5. DMAT、JMATについて説明できる。 6. 災害時傷病者トリアージについて説明できる。 7. 多職種による災害時対応の意義を説明できる。 [C-1-3-2・3・4、C-4-3-7・8] 事前学修：我が国の過去の災害とその被害状況を調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義の最後に実施する確認テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間45分程度。

講義	6/19 (木)	1	中久木康一 非常勤講師 災害時歯科保健医療活動 災害時の歯科保健医療活動を理解できる。	1. 災害医療に関わる法律について説明できる。 2. 災害発生時の歯科医師としての立場とその役割を理解できる。 3. 災害避難者に対する歯科医師の役割を説明できる。 4. 災害時の歯科保健医療の必要性を理解できる。 5. 被災者の口腔ケアの重要性について説明できる。 6. JDAT、DHEATについて説明できる。 7. 災害関連死について説明できる。 [PR-01、GE-05、PS-10、CM-04・05、IP-01・02・03・04、SO-06、C-1-3-2・3・4、C-4-1-2、C-4-2-2、C-4-3-7・8] 事前学修：法歯科医学p186-187を読み、加えてWebClassに掲示したURLを閲覧し、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義の最後に実施する確認テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間45分程度。
実習	6/26 (木)	1	中久木康一 非常勤講師 災害時避難所対応実習 災害時避難所の歯科保健管理が行える力を習得する。	1. グループワークを通して、災害時避難所のアセスメントを行うことができる。 [GE-05、PS-10、CM-04・05、IP-01・02・03・04、SO-06、C-1-3-2・3・4、C-4-1-2、C-4-2-2、C-4-3-7・8] 事前学修：我が国の過去の災害とその被災者数を調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解不十分であった点については知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/3 (木)	1	菊月圭吾 客員教授 警察協力歯科医による検死活動 平時・災害時の歯科医師による検死活動を理解できる。	1. 警察歯科医について説明できる。 2. 災害犠牲者に対する歯科医師の役割を説明できる。 3. 災害現場の遺体安置所での歯科医師の活動を説明できる。 4. 身元不明死体と候補者との照合について説明できる。 [C-1-3-5、C-4-2-1、C-4-2-2、C-4-3-8、C-4-4-1] 事前学修：法歯科医学p187-190を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義の最後に実施する確認テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間45分程度。

実習	7/10 (木)	1	熊谷章子教授 (法科学講座法歯 学・災害口腔医学分 野)	大規模災害対応実習 1 災害時の歯科医師の役割と多職種が連携した対応について理解できる。	1. 災害現場出動のための準備が行える。 2. 安全に配慮した災害対応が行える。 3. 犠牲者に対する他職種の役割を理解できる。 4. 災害被災者、犠牲者に対する多職種と連携した作業が行える。 5. グループワークを取り入れて、災害現場の遺体安置所設営が行える。 6. 海外の身元確認システムを説明できる。 7. DVIチームについて説明できる。 8. DMORTについて説明できる。 [PR-01、C-1-3-2・3・4・5、C-4-2・2、C-4-3-8、C-4-4-1] 事前学修：法歯科医学p187-194を読み、疑問点を抽出しておくこと。岩手県の地域防災計画に目を通しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解不十分であった点については知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	7/17 (木)	1	熊谷章子教授 (法科学講座法歯 学・災害口腔医学分 野)	歯科的個人識別実習 1 正確なデンタルチャートの記入方法を習得する。 遺体のデンタルエックス線写真撮影法を取得する。	1. 死後記録として有用なデンタルチャートを完成させることができる。 [C-4-2-2、C-4-3-8、C-4-4-1] 事前学修：我が国の過去の災害とその犠牲者数を調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解不十分であった点については知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	8/21 (木)	1	熊谷章子教授 (法科学講座法歯 学・災害口腔医学分 野)	歯科的個人識別実習 2 照合による歯科的個人識別法を習得する。	1. 生前記録との照合作業ができる。 2. 学生同士でのディスカッションを通して、正確で適切な歯科的個人識別について説明できる。 3. オンラインシステムを利用した生前－死後照合用アプリケーションを利用した効率的な犠牲者対応ができる。 [C-4-2-2、C-4-3-8、C-4-4-1] 事前学修：我が国の過去の災害での犠牲者身元確認方法を調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解不十分であった点については知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	法歯科医学 第2版	高橋雅典 監修、都築民幸、山田良広、櫻田宏一 編	永末書店	2022年
参	災害歯科医学	槻木恵一、中久木康一 編	医歯薬出版	2018年
推	家族のもとへ、あなたを帰す	柳原三佳	WEVE出版	2012年

成績評価方法・基準・配点割合等

- ・講義（65点以上で合格）：筆記試験の評価
- ・実習（65点以上で合格）：実習（態度、知識、技能）評価
- ・最終筆記試験実習の総合評価：講義と実習が、それぞれ合格した場合に合格とする。

備考

- ・授業態度、実習に対する知識（実習内容を理解することができる）、技術（実習内容に則した手技ができる）、積極性（実習意欲があり積極的に行動することができる）、礼節（礼儀正しい話し方ができ責任ある行動ができる）を評価対象とする。
- ・講義・実習ともに欠席・遅刻に応じて減点する。

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

- 【フィードバック】
- ・非常勤講師担当以外の講義では講義後に試験（ポストテスト）を行い、結果は次の講義前にフィードバックする。
- ・実習で作成されたプロダクトを他の学生と共有し相互でブラッシュアップする。
- 【アクティブラーニング】
- ・講義/演習日程表の「ユニット名 内容」の欄に別途記載済み。
- 【ICT】
- ・講義前にWeb Classに資料を提示するので事前学習に利用すること。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的